

視覚障害リハビリテーション事業にかかるコスト：日本盲導犬協会の場合

内田まり子、原田 敦史、畑野 容子

財団法人日本盲導犬協会仙台訓練センター

1. はじめに

各地ではさまざまな形態で視覚障害リハビリテーション事業が実施されているが、それにはどのくらいのコストがかけられているのだろうか。事業を行なう際にはコストは必ず問題となるが、その目安となるような報告はされていない。

本報告では、財団法人日本盲導犬協会（以下「協会」）が仙台訓練センター（以下「仙台センター」）において行なっている視覚障害リハビリテーション事業（委託事業は除く独自事業）について、どれくらいのコストだったか振り返り、各事業において、参加者あたりあるいは訓練あたりの単価として算出する。それらをひとつの目安として報告したい。

2. 各事業におけるコスト

（1）講習会事業

視覚障害リハビリテーション（以下「視覚リハ」）を知ってもらう、あるいは利用のきっかけとなることをねらいとした講習会である。

2007年度は青森県・岩手県・福島県・山形県で実施しており、2008年度はこれに加えて秋田県・宮城県においても行なう予定である。参加費は無料。今年度の講習会は名称を「見えない・見えにくい方の相談とすぐに役立つ生活講習会」とし、3時間半の会のうち2時間半を使って生活訓練体験（白杖歩行、パソコン、点字、日常生活の各訓練の基礎知識と一部実践）を行ない、残り1時間を個人相談

にあてる。そのほか便利グッズの展示を行なう。対象は視覚障害者とその家族だけでなく、情報の窓口となる行政・医療・福祉関係者の方々とし、地域によって差はあるが、1回につきおおむね10名前後の参加があった。

スタッフは生活訓練指導員2名（多くの参加が見込まれる場所では3名、少ない場合には1名）が、協会車両1台で仙台センターから会場に移動する。

次に示すのは、2008年4月に実施した、岩手県での講習会にかかったコストである。

表1 岩手県講習会でのコスト

交通費(高速料金)	¥27,100
ガソリン代	¥25,100
宿泊費	¥18,000
会場費	¥2,000
合計	¥72,200

会場は岩手県盛岡市、二戸市、花巻市での3カ所。県施設、市施設、県立病院で場所を借りた。参加人数は42名であり、内訳は、視覚障害者22名、家族8名、ヘルパー2名、行政・医療を含む関係機関職員10名だった。

上記のコストを参加者1名あたりで見ると、1720円であった。岩手県における講習会は、一昨年度から開始したが、2006年度・2007年度の参加者1名あたりのコスト平均は1,779円であり、2008年度と比較しても大きな差はなかった。

(2) 視覚障害リハビリテーション地域生活サポートサービス

講習会のあとを受け、自宅で視覚リハを受けたいという方や、協会での短期入所訓練のフォローとして行なう、期間限定の在宅型の訓練である。

2007年度は岩手県、福島県、山形県で実施した。2008年度も同様の地域を対象とする予定である。対象地域に在住の訓練希望者1名に対し、指導員1名が訪問し、マンツーマンで訓練を行なう。訓練内容は個人により異なるが、歩行・パソコン・点字・日常生活訓練から希望のものを行なう。1回の訓練はおおむね1時間半で、利用料金は1回につき1,000円である。

スタッフは生活訓練指導員3名がおおむね各5名程度を担当し、それぞれが協会車両で仙台訓練センターから訪問する。移動距離が長い地域では、必要に応じて宿泊する。

2007年度11月に行なった岩手県での地域生活サポートサービスにかかったコストを次に示す。

表2 岩手県地域生活サポートサービスにおけるコスト

交通費（高速料金）	¥86,000
ガソリン代	¥60,909
職員日当	¥31,500
宿泊費	¥36,000
合計	¥214,409

訓練利用者は8名で、訓練を行なった回数のはべ31回である。1回につき1,000円の利用料を徴収するので、合計31,000円の収入があった。これを差し引き、利用者1名・訓練1回あたりでは、約4,900円となった。2006

年度は37回の訓練を実施したが、利用者の居住地が沿岸部にもあったために移動費用がさらにかかっており、訓練1回あたりの費用は6,660円だった。岩手県は特に面積が広く、利用者の居住地に大きく左右される。

(3) 視覚障害短期リハビリテーション

入所型視覚リハ受講のきっかけとなることや、同じ障害を持つ人との出会いの場となることをねらいとし、2週間という期間で行なっている入所型訓練。

協会仙台センターに宿泊し、訓練内容は個人により異なるが、歩行・パソコン・点字・日常生活訓練から希望のものを行なう。訓練は1回（コマ）75分、1日に4回のプログラムを組む。初日のオリエンテーションとファムを除いて、期間中に約30回の訓練を行なう。対象者は東北6県あるいは新潟県に在住の視覚に障害のある方6名である。料金は食費・訓練費用を含み、15,000円である。

スタッフは生活指導員3名他、一部訓練を担当する歩行訓練士1名または2名が訓練を行なう。また、この期間のために、食事準備を担当するパート勤務員が入る。

2008年5月に実施した、第17回短期リハビリテーションでのコストは以下のようだった。

表3 第17回短期リハビリテーションにおけるコスト

訓練費用（駐車場代、材料費）	¥56,530
食費（賄いパート含む）	¥241,904
事前面談（1名）に係る交通費	¥980
パソコン訓練講師謝礼	¥20,000
雑費（リネン費用等）	¥30,332
合計	¥349,746

第17回の参加者は7名で、収入金額の合計は98,000円だった。これを差し引いた訓練1回1名あたりの金額は、2,248円だった。過去3回分の訓練1回1名あたりの金額の平均は1,930円であり、おおむね2,000円程度が平均的に見込まれる。

3. 他施設で行なっている視覚リハ事業にかかっているコスト

施設Aでは、年間を通して、訪問での視覚リハ事業を行なっている。対象地域は県庁所在地で基点となる施設のある市を除く県全域で、利用料は無料。2007年度では、相談を含んで292回の訓練を実施した。この訪問訓練に関わる費用は、2007年度では以下のようなものだった。

表4 施設A訪問訓練にかかるコスト

旅費（交通費）	¥137,660
需用費（消耗品、燃料費等）	¥447,818
役務費（通信料、郵送料等）	¥165,435
自動車保険	¥116,340
合計	¥867,253

訓練1回利用者1名あたりについての金額は、約2,970円だった。

また、施設Bでは、他事業と並行して視覚リハ事業を行なっている。施設所在地の隣県在住者を対象とし、指導員が訪問して、主に歩行訓練やパソコン訓練を実施している。利用料は、1回の訓練につき1,000円である。2007年度には61回の訓練を行なった。この事業にかかった費用は、以下のようなものだった。

表5 施設B訪問訓練にかかるコスト

交通費（高速代）	¥81,600
ガソリン代	¥120,000
合計	¥201,600

訓練61回分、61,000円の収入を差し引き、訓練1回利用者1名あたりにすると、約2,305円だった。

4. その他の費用について

前述の訓練事業について、交通費などの訓練時にかかる費用の他、白杖や便利グッズなど初期費用が必要である。仙台センターで使用している機材で主に講習会で使用している物品について、かかった費用を次の表に挙げる。

表6 講習会にて使用する物品にかかる費用

白杖各種12本	¥65,820
便利グッズ（補助対象以外）	¥39,615
点字器・テキスト類	¥9,130
パソコン画面読み上げソフト	¥40,000
合計	¥154,565

白杖以外の補装具、日常生活用具については業者の協力を得ると仮定し除外、パソコンはデモ用に音声ソフトのみ購入すると仮定し算出した。（訓練時は、利用者が所持している機器を使用する。）

5. 考察

講習会事業については、参加者1名あたりの金額は約1,720円であり、地域生活サポートサービスの訓練1回あたり約4,900円、短期リハビリテーションの訓練1回あたり約

2,248円と比較すると、金額的には安価に実施できる。

また、参加者が増えた場合、サポートサービス・短期リハビリテーションの単価は下がらないが、講習会の場合は下がる。視覚リハの導入をねらいとする事業としては、大勢に来てもらえるほど、講習会は効率が良いと言える。

訪問訓練については、訓練1回あたりで比べてみると、地域生活サポートサービスは約4,900円、施設A訪問訓練は約2,970円、施設B訪問訓練は約2,305円であり、協会の地域生活サポートサービスが突出して高かった。地域生活サポートサービスは、基点から訓練地までの距離がおおむね100kmを超えており、高速料金など移動費用がかさんだことと、訓練士が宿泊する必要もあったことが、単価を高くした要因と思われる。いずれの事業も訓練士が訪問するための旅費・燃料費（移動費用）が大半を占めており、地元で訓練士がいれば、移動費用は抑えることができる。

6. まとめ

本来ならばまず念頭に置かねばならない人件費だが、今回の報告では、既存の社会資源を使うという視点から、その部分を取り払い、シンプルに訓練に関わる経費のみ取り扱った。新規事業の提案のためには、人件費を含む利用者・訓練当たりの経費やコストパフォーマンスについての議論が必要であり、今後検討されるべき課題である。

人件費を除くと、各事業で参加者1名・訓練1回にかかる費用は下記のとおりだった。講習会1名あたり約1,720円、地域生活サポートサービス訓練1回利用者1名あたり約4,900円、短期リハビリテーション訓練1回

1名あたり約2,248円だった。新規に人件費を組み、雇用を確保することから始めるのは困難かもしれないが、訓練できる人材がいる等の状況がある場合には、これらの金額は、リハ事業を開始・追加するにあたってのおおよその目安にはなるかと思われる。

実際に生活訓練指導員の資格を持ちながら、視覚リハ訓練に携わることの出来ていない人材は多い。その多くは、現状以上のサービスを提供したくてもできない状況であり、これには主に2つの理由が考えられる。1つは、視覚リハ以外の仕事を抱えていて時間的余裕がなく、事業展開できないこと。もう1つは、費用面の問題で事業展開できないこと。

上記のような状況ではあるが、年に1回でも2回でもサービスの提供ができれば、視覚に障害のある方々にとって役に立つものとなり、ニーズの掘り起しにもつながる。また、費用面については、訓練1回につき、どの程度の利用者負担をしてもらえればサービスを提供することができるかということを検討していく必要がある。そのための1つの目安となればと、今回の報告を行なった。今回は仙台訓練センターにおける視覚リハ事業を中心に報告したが、他施設での事業で1回あたりどれくらいのコストがかかっているのか、事業内容別に複数と比較検討できれば、適切なコストを算出することが可能になり、事業展開のための足がかりにつなげることができると思う。